

さくらピア避難所体験Part3

2011年9月17日18日



実施報告書

17日 応急手当講習と避難訓練参加者 142名

夜の交流 74名

宿泊 28名

18日 まとめの会 33名

計 277名

参加者内訳

2011,9,17,18 さくらピア避難所体験

障害種別		17日			18日	合計
		講習・訓練	グループ交流	宿泊	まとめの話	
障害者・ 家族	身体	33	10	4	4	51
	重身	1	2	2	1	6
	内部	1	1	1	1	4
	視覚	0	1	0	0	1
	聴覚	6	4	1	4	15
	知的	2	4	2	1	9
	精神	3	1	0	0	4
	家族	13	13	3	3	32
	小計	59	36	13	14	122
一般	介助	2	0	0	0	2
	施設	1	1	0	0	2
	ボラ	12	12	6	5	35
	大学生	9	0	0	0	9
	一般	2	2	1	1	6
	市職員	4	6	2	4	16
	市議	1	4	2	0	7
	社協	1	2	0	0	3
	その他	45	5	0	4	54
	さくらピア	6	6	4	5	21
	小計	83	38	15	19	155
合計	142	74	28	33	277	

参加者内訳

総参加者数277名のうち122名が障害者とその家族だった。

全国的に見てもこのような障害者主導の防災訓練は極めて稀である。

宿泊予定だった家族が何組か体調を崩しキャンセルがでて昨年より少し宿泊者は減ってしまったが全体の総数は昨年より増えた。3歳の幼児から高齢者、そしてさまざまな障害の人が各体験に参加していたのでいろいろな立場の人の様子がわかった。今回はじめて市職員、市議会議員も宿泊体験に参加していただいた。大学生は三角巾講習のサポート講師としてたいへんよくやってくれた。

その他で消防署員の方が昼間の訓練後夜の報告にも出席してくれた人がいた。

昼間の訓練には近隣住民 民生委員 会館利用者も参加。今回は消防はしご車の救助訓練もあったので公園利用者にも啓発することができた。

南三陸町被災地視察報告

さくらピア事務長 本田栄子

6 か月を過ぎ 復興のニュースも聞かれるが あちこちに瓦礫の山がたくさんこり 仙台の街中と湾岸部の景色は全然違うと思った。

のぞみ作業所では 17 人のうち 15 人が助かった。施設長さんは「自分の誘導がもっと上手にできていればあとの 2 人も死なずに済んだかもしれない」と毎日思うそうだ

私も管理責任者としてさくらピアに利用者がたくさんいるとき火災が起きて十分な誘導ができる自信はない。だからこそ 避難所体験の参加を呼び掛けている。

のぞみ作業所の利用者は志津川高校へ避難した時 一般の人は体育館に 障害者は障害者の部屋に ペットを連れた人はペットと一緒に人を集めた部屋に入れてもらった。

それは 避難所マニュアルに書かれていなかったと思うが 作業所の様子をいつも見ている社協の職員の方と学校担当者〔教頭?〕が素早い判断を下してくれて 最初から教室に入れてもらった。

後から 他の地域の障害者の例をきくと 体育館で非常に苦労したりトラブルがあったりしたようなのでのぞみ作業所の場合はその点は別室にさせていただいて幸せだったと感謝している。

しかし 避難所から連絡がついて家族に返すときスムーズだったわけではない。家族も被災者だから 作業所が流され日中障害者がいくところがないと本人も家族も大変困る。

今の仮の作業所はバリアフリーではないので 通えなくなってしまった車いすの人もいる。

(灯り) が障害者にとっては大事だと思った。暗闇は不安を増長させるし手話も見えなくて聴覚障害者も困る。 気持ちを安定させるためにも 灯りは大事なので非常持ち出しグッズには忘れないようにしたい。

施設や団体の連絡網は家族の携帯メールアドレスを登録しておいたほうが良い。電話はなかなかつながらなくて電池が無くなってしまった。

福祉避難所の中身は何も決まっていなかった。混乱のなかで早く対応するためには平常時の対策が大切。

情報情報というが 今回情報が多すぎて何が本人に必要な情報なのかを高齢者や障害者が探すのが大変だったという例もあった。「必要な情報を 必要な人に」ある程度整理して渡すシステムも必要

豊橋では まだ 第一避難所 第二避難所の運営マニュアルに 災害時要援護者の対応は

「配慮」という言葉だけ。どんな「配慮」が必要なのか具体的に分かっているのはまだ当事者や 家族 付き合いのある人たちだけ。自治会や行政ともっと連携していく必要がある。

そこに 住んでいる人(障害者)が住んでいる人(みんなに)に伝えて つなげて 防災対策をつくりあげていかなければと思う。

2 グループ交流

参加者 74名

<知的障害者グループ>

- ① 優先順位のマニュアル化→ 入口近くや個室などへ等、避難所内で障害者の居場所を決める人が 誰になるのかわからないが基本マニュアルをつくってわかるようにしてほしい。
- ② 個別の部屋(体育館だとパニックを起こしたり奇声を発したりして迷惑をかけお互いにつらい思いをする。それを防止するための個室利用であり 我がままではないことを理解して欲しい。自衛隊などのお風呂は男湯と女湯に分かれている。しかし異性介護の家族はどちらにもはいれない。
- ③ 避難所に居なくても食料、物資、医薬品、情報が得られるようなくみがほしい。自宅にいる人には物資が届かないと聞いた。事情で自宅で過ごすひとにも物資や情報が届くようにしてほしい。
- ④ 洋式トイレが必要
- ⑤ 見守りボランティア
目が離せない障害児を抱えていると 片付けや手続きやいろいろな復興への活動が親ができないので 見守りボランティアが欲しい。

<車いすグループ>

- ① バリアフリー まず大きな段差があったら避難所の学校にたどりつけない。
- ② 車いすが動ける広さ。広い通路がほしい。
- ③ 老人ホームにあるようなポータブルトイレ(手すり付き)があると良い
- ④ 私は脊椎障害だが トイレは時間をきめて処理している。大便の場合は1時間かかる大勢いるところで 一人で長い時間使うことに遠慮がある。障害特性を理解して欲しい簡易トイレの周囲をテントで囲ってもらえるといい。

<食べ物アレルギーグループ>

- ① 乾パンが食べられない子もいる 成分を知らずに食べると死に至ることもある。
- ② 炊き出しのメニュー(食材)が知りたい ボランティアの方が作ってくれる炊き出しも食べたいが 中身がわからないと食べられない。炊き出しを作る時 その中身を貼りだしておいてくれれば安心して食べられる。
- ③ アトピー、喘息のひどい子は掻いたり夜泣きがあるので個室を希望。
体育館で何日もいると病状が悪化する 一般教室の開放の時、配慮して入れて欲しい
- ④ ボランティア活動をしている人もアレルギーの事を勉強してもらえればありがたい

<身体障害者グループ>

- ① 障害種別が分かるようにしてほしい プラカードを立てるなどしてどこに障害者がいるかわかるようにしておいてもらえば 共通の話題や情報交換ができる
- ② 情報伝達への配慮 目の見えない人 耳の聞こえない人にも情報がちゃんとわかるようにしてほしい
- ③ 避難所に多目的トイレをつけて欲しい
- ④ ストレスに弱い障害者は別部屋

<聴覚障害者グループ>

- ① 事前に地域との関わりをもつ → 地域に障害者がいることを知ってもらう
自治会長さんは毎年変わるし熱心な人もそうでない人もいる 高齢であまりマニュアルなど読めない人もいる。地域に居る障害者が顔をつないでおくことが大事。
- ③ 避難所の設備 TV (字幕) はあるか 耳が聞こえる人は字幕が目障りに思う人もいる
- ④ 食事、給水等のアナウンス → 音の情報だけでなく、文字の情報を
- ⑤ 電池、充電機の確保 → 補聴器、携帯
- ⑥ あいトピアを避難所にしてほしい → 通訳者がいてほしい。 発災直後は無理かもしれないが通訳者が確保できたら そのことを周知してほしい。通訳者がいることがわかれば 聴覚障害者はそこに集まる。

<混合 (身体・防災ボランティア) グループ>

- ① 外から見てもわからない障害の人への配慮 (障害別ワッペンなど)
- ② 助けて欲しいときに上げるカードを作ったらどうが。
- ③ 障害別に場所を設けてほしい。
- ④ 要望を聞いてくれる専門のスタッフ
 - ・ ピアカウンセラーのような人もいいのでは防災ボランティアの人たちに福祉をたくさん勉強してもらおうといい
- ⑤ 親族と一緒にいい
- ⑥ 床より高い (簡易ベッド) がよい 床だと起き上がれない障害の人もいる
 - ・ トイレに近いところ
 - ・ 車いすがほしい
 - ・ 分散マット
 - ・ 寝るところがほしい
 - ・ トイレの配慮は 水、トイレ、仕切り、音、オムツ換え台 心配はつきない…

<話し合いの感想>

防災VC尾崎公枝さん

8月に陸前高田にボランティアに行ってきました。さくらピア避難所体験で障害者の事を知ったので被災地に行っても「障害者の方はどうしているだろう 豊橋で起きたら豊橋のみなさんはどうなるだろう」といつも考えてきました。こんな言い方がいいのかどうか分かりませんが大切なのは一人一人が身をまもる意識。一般の方はもちろんですが障害者の方がたは普通のひとよりさらに防災意識を高く持っていていただきたいと思います。私たちが勉強しみなさんに役立つ情報があれば伝え、そしてみなさんの要望をこれからも聞きながら防災ボランティア活動をしていきますのでどうぞよろしくお願いします。

※さくらピアのイーバックチェアは防災VCの方に昨年他県の展示会で見たものを紹介していただき購入しました。いろいろな人との情報交換が大切だと思います。(本田)

23年度さくらピア避難所体験宿泊アンケート結果1

◆参加回数（アンケート回収 11）

- ・初めて 10人
- ・二回目 0人
- ・三回目 1人

◆どんな設備がほしいか

- ・たぶん、児童室は、障害の方のための個室になるかもしれないから、体育館の
スミに、カーテンで隠して、授乳コーナーとか、おむつ代えコーナーがあるの
かな？と思いました。
- ・玄関がもっと広くてもいいかなと思いました。
- ・プライバシーが守れるようなしきりがほしい。
- ・情報伝達掲示板
- ・①トイレ
普段と違う場所なので子どもが神経質になって尿意を催し、トイレに二時間
ごとに行き、しかも長くトイレを占領してしまい他人に迷惑をかけるので。
- ②布団 → もし冬場だったらと考えたときに思いついた。
- ③枕 → 肩が凝って、なかなか寝付けなかった。
- ・体育館内で間仕切り（ダンボール製で十分）
- ・簡易トイレが一番心配です。（もう備蓄されているのかもしれませんが）
- ・設備ではないですが、家の子は普段、食事はミキサーで細かくしたものを食べ
させているので体験と思って家からおかゆや、子ども用のおかずを持ってきま
した。非常食とトン汁を食べさせましたが、やっぱりご飯に関しては、お湯を
多めに入れて作ってみましたが、おかゆではなくやわらかいご飯という感じで、
一粒一粒がしっかりしてしまっているのもむせてしまったので、細かく嚙んで
あげました。とん汁は、里芋はスプーンでつぶせたのでおいしく食べられまし
たが、それ以外の野菜は、やはり嚙んであげないと食べられず、食べたのは里
芋ととん汁の汁を胃ろうから注入しただけでした。本当に震災があった場合は、
炊き出しのものとかは食べられるものだけをこちらで選んであげますが、ご飯
だけでも、おかゆ、それも普通の汁の多いおかゆではなく、とろみのついたお
かゆのような、ミキサーで一々調整しなくてもいいもの（電源が使える状態な
らよいが使えない場合もあるので）があるとうれしいと思いました。

アンケート結果2

◆何か気づいたこと

- ・避難所体験にもっと若い（大学生とか、福祉の専門学校生とか）一般のボランティアさんに参加していただいて、「自分は何ができるのか」考えて行動してもらえるようになったら良いなと思いました。そしたら、さくらピアの職員さんは、たくさんのボランティアさんを、どう指示するのかとか、他のことを考えられるかもしれないと思いました。
- ・避難所で寝泊まりするのは、なかなか休まらないですね。ちょっとした物音、動作がよく聞こえるものですね。今日は、人数も多くはなかったですが、もっと詰めて寝ると、ますます気を使う気がします。（私は無頓着なので、問題なく寝ました）

同じ避難者の中に、どんな方がいらっしゃるのか、運営するときにはしっかりとつかんでいくことが大事ですね。第一、第二の避難所に生かすべき視点もたくさんあるように感じました。

やるべきことが多少わかっているけどもいつそれを始めたらよいのかとか、やはり指示する人（しくみ）がないと混乱しそうだとも思いました。（水汲み、食事の準備等）

すべての避難所に、一定の水準まで要援護避難者対応ができる設備と体制を、ぜひ備えていただきたいとも思うのですが、一方では、障害者や高齢者、どんな方がいらっしゃるのかという情報をお互いつかんでおく、地域のコミュニティー力ともいえるべきものがしっかりあるとよいと思います。

今日は、大変良い体験をさせていただきました。

- ・避難所の炊き出しの時も、アレルギーのある子への配慮が必要だと、あらためて勉強になった。
- ・慣れない場所での宿泊だったので、体力的に大変でした。色々な音が気になったので、耳栓を持ってくればよかった。
- ・トイレの水汲み訓練、足の悪いものには大変でした。
- ・通路の指定や、館内へのスリッパ等の履き替え案内が分かりにくかった。
- ・空調があるため、停電でなければ他の避難所に比べて快適にいられると思う。
- ・障害のワッペン、SOSカードなどの意見があったり、大変に有意義な夜のミーティングでした。またいろいろ勉強させていただきます。
- ・障害者の宿泊体験者が少なかった。

宿泊 28人 障害者 10人(身体、知的、重度身体、内部、聴覚)
家族 3人
その他 15人(ボラ、一般、市役所 議員 職員等)

まとめの話～市～豊障連

★福祉政策課長 氏原祥元

東日本大震災の教訓で豊橋市でも災害時要援護者の対策については重きをおいています。今年6月には豊橋市と民間の9福祉法人与「災害時における要援護者の受け入れに関する協定」を結びました。この協定も結んで終わりではなくたとえば移送方法や地域性のことなどこれからも関係の方々協力して受け入れが進むようにしていかなければならないと思っています。豊橋市には第一、第二合わせて160か所の避難所があります。先日9月1日に避難所開設訓練をしました。市職員400人ほどが有事には担当の市民館等へ行き避難所開設をすることになっています。東田小学校でも初めて1泊の避難所体験をしました。まだまだ自分の第一避難所第二避難所をご存じない方が多いので今回この「さくらピア防災カード」を作っていただきましたのでここに記入して覚えてください。避難所の運営も防災対策も市だけで進めるわけではありません。市民の皆さんと手を携えていきたいと思っておりますので今日のように当事者の意見をたくさん市へ出してください。

>参加者から～避難所開設については もう少し具体的な案を出して欲しい。

また福祉避難所も担当者の開設訓練をしてほしい。

★障害福祉課補佐 岡田伸一

今回はじめて参加しました。参加者の感想で「避難所体験は1日だけとわかっているのでのんびりできたが実際にはこんな風にはいかない」とおっしゃってましたがそのとおりだと思います。緊急でない平常時に防災についてよく準備しておくことが大切です。みなさん一人ひとりの障害特性やどんな配慮が必要かということをこの防災カードに記入して一緒に避難所に避難している人によく伝えておくことが大事だと思います。周囲に自分のことを伝える方法について9月1日の広報にご案内のとおり市は「救急医療情報キット」をつくりました。申請者にお分けしますので障害者の方は障害福祉課に申請してください。

>参加者から～知的障害者は一人暮らしではなくても 介護者が倒れたりした場合自分の事が説明できないので 対象者として欲しい

★障害福祉課長 井口健二

介護者がでかけたりする場合「日中独居」に当てはまるので申請できます。制度を上手に利用してぜひ活用してください。また記入欄などの要望や改善点があれば市にどんどん伝えてください。

>参加者から～救助隊員にわかりやすく伝えるということが目的だから障害別に団体で独自のものを工夫してつくるのもいいと思う。自宅配備用にはこの救急医療キット、外出時での携帯に「さくらピア防災カード」というように使うといい。

★豊障連会長 前田宣雄

東日本大震災後の報道で避難時の様子についてだんだん明らかにされてきた。多数の命が奪われた悲劇の学校、一人の犠牲者もなかった奇跡の学校…。明暗を分けたのは何か…。昨日防災VCの方のまとめにあったように「障害者こそ 普通の人より防災意識を高く持つ」これは非常に大切なこと。今回の訓練で気づいたことを行政の対策に反映していただくとともに 我々当事者もたくさんの方が訓練に参加し障害者一人一人の防災意識を高めていこうようにしたいと思います。

みなさんお疲れさまでした。企画のさくらピア職員のみなさんありがとうございました。

考察

① 応急手当講習と避難訓練

三角巾講習は 繰り返しの訓練を要する。今年は初めて創造大学医療看護学科の学生9名に指導をサポートしてもらった。行事開催の連携としてはいい方法だと思った。高齢者はなかなか覚えられないので また工夫をしていきたい。

避難訓練は体育館からなので公園には近かったがやはり時間がかかった。昨年購入した布担架と今年2月に購入したイーバックチェア（階段降機）で非常階段の練習もした。

イーバックチェアについては職員が事前に何度も練習しての利用だったのでうまくできた。職員やよく出入りする役員さんなどにも使い方を覚えてもらおうといいと思う。

今回は消防はしご車をふくめて3台が出動し3階のベランダから要援護者を救出する訓練もした。やはり消防車がくると近隣の方の見学も多く防災訓練の啓発につながった。

② 夜の話し合い

まず6月の豊障連大会のときに作った「障害者の防災」のビデオを鑑賞。その後PPで南三陸町の写真を見ながら事務長本田より視察報告をした。（別紙資料参照）

その後今年は避難所マニュアルにある「配慮」について具体的な要望を出し合った。

まとめ記録にあるとおり「アレルギーなので乾パンが食べられない」「炊き出しの材料を貼ってほしい」「トイレが一番問題」「自主防災会も役員がかわると対応が変わる」など当事者ならではの声が聞こえた。市職員 市議会議員も参加して意見をきいた。

③ 宿泊

はじめての人と 経験者と半々ぐらいの顔ぶれだった。3歳の幼児を連れた母子、重度障害で胃ろうによる食事の親子 難聴者 呼吸器障害 身体(上肢、下肢)知的障害

とさまざまな立場の人が泊まった。まとめにあるように子どもの意思確認のために常に明りが必要なお母さん、クーラーが必要な人、音がうるさい人、など意見は様々。しかし暑い寒い自分で体温調節ができない障害の人にとってはすぐに生死に直結する問題であるとの認識をもっと避難所運営関係者に広げなければと思う。

今回は朝食は参加者にお任せした。前日のうちに段取りなどしっかり打合せする必要があったかなと思う。プラスチックのスプーンを障害者が噛んで割ってしまったこと、

、2台の発電機のうち1台が故障していたこと 敷き布団代わりになる体操用マットの数の確認やマット干し、シャワーの使い方の確認など避難所体験を開催したおかげで気がついたことが今回もたくさんあった。

④ 18日まとめ

貴重な意見を聴くことができた(別紙参照)

宿泊者同士が相手の障害がどんなものかわからなかったというのが印象に残った。

障害児の親が「子どものものを用意するのに精いっぱい自分の着替えも忘れた。」

という感想に 当事者家族の大変さを感じた。

課題と次回にむけて

★さくらピア防災カードの活用 昨年紹介していただいた資料をヒントに作ったカードに利用者が記入し 避難所についての知識や防災意識が向上するように 促すイベントや声かけの工夫をして 防災意識の向上に確実につながるようにしていく。

★関係者への呼びかけ。民生委員さんの参加が昨年12名に対して今年は2名だった。出席して欲しい人にはやはり電話も必要だった。

校区の第1第2指定避難所、小学校 校区市民館、高校は災害時要援護者の受け入れについては学校はまず児童、生徒の安全確保が最優先課題で地域の障害者の人のことまでは思いが及ばないのも現状だろう。私が視察してきた南三陸町の志津川高校のように豊橋市で発災したときときそのときの開設担当者が誰であっても障害者の対応に適切な配慮を入れた指示や運営ができるような体制が必要だと思った。そのためにはどうすればよいか

市の方針が「まずみんな指定の第1、第2避難所へ行きその後福祉避難所へ移動」と明記されている以上 障害者はまずその避難所についてどんなところか知らなければならないと思う。平常時に行ってみて状況を把握したうえで意見を述べるべきではないか。自分の避難所がどこかも知らず見たこともなくただ「行けない」だけでは説得力に欠ける。

豊橋市発行の「防災のてびき」には「 防災コミュニティの推進」というページがある
「様々な分野の地域住民や事業所、行政などが協力しあって、災害に強いまちづくり、人づくりを目指し、防災活動に取り組む」と記載されてあるのでこの方針を具現化してゆく体制作り「さくらピア避難所体験」をつなげたい。

前回にも述べたが机上の防災報告集、対策集は世の中に出ている。国の方針も提言されて文になっている。しかしそれを読む一般人は少なく市民ひとりひとりの認識と学識者の情報に大きなへだたりがあるのが現状なのだ。

災害時要援護者対策は「住んでる人から住んでいる人へ」直接顔をあわせて伝えていくのが一番効果的である。さくらピア避難所体験の企画運営は3年間の経験を生かし次回は校区自主防災会、学校等と連携し避難所マニュアルの確認や設備の確認 情報交換などをしていきたいと思う。

★施設管理の充実への効果

冷暖房の工事が終わり 夏冬の温度調整は快適になった。

避難所体験のためにいろいろ準備をしていると会館の不備が発見できる。

よく使う施設は必要な設備に気づき補充することが出来 使われない施設はいい点にも悪い点にも気づくチャンスを逃していることになる実感した。

1泊の体験を企画実行するのは準備にも時間がかかり大変だが物心両面に大きな収穫があることを今年も実感した。

★おわりに

東日本大震災で亡くなった障害者と関係者の方のご冥福を祈り、被災されたすべての方にお見舞い申し上げます。

< 文責 > さくらピア事務長 本田栄子